

なにはともあれ文化の町に なにはなくとも時間がほしい

教育委員会ではこのほど町民2000人を対象とした社会教育調査の結果をまとめました。調査結果によると書道や料理、パソコンなど多様な学習意欲が伺える反面、社会教育事業やサークルへの不参加、あるいは図書館を利用しない理由は時間が足りないがトップです。過去2年間に町の行事に参加した人の割合は3分の2でした。なお、回答率は75・6%でした。

社会教育調査のねらいと今後の活用



樋口 滋

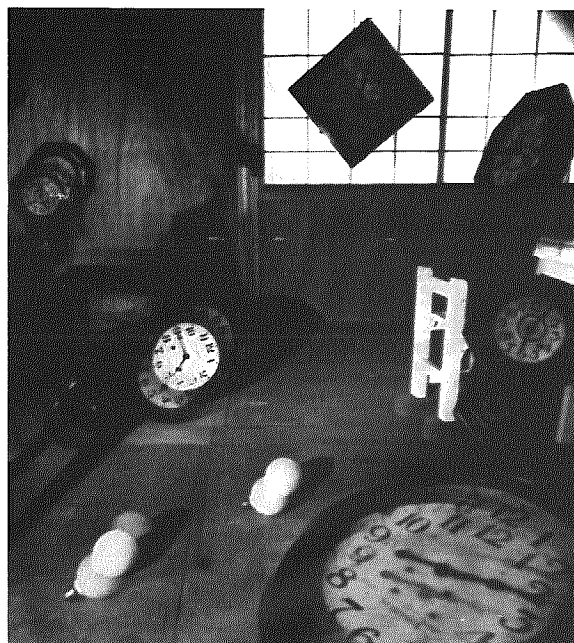
県派遣社会教育主事

現在、生涯教育の推進が叫ばれ、新しい時代に即応した取り組みが求められています。黒埼町では昭和60年度から3年間県の生涯教育推進モデル事業の指定を受け、生涯各時期にわたる学習が行いやす

いように、学習情報や学習機会などの条件整備を模索しながら進めております。より町民ひとりひとりの要望に合致した推進計画の策定や方策を生み出すためには、科学的に把握し、分析、考察

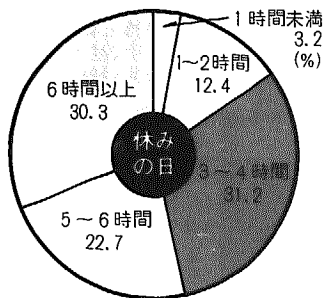
を加えたデータが必要で、そこで、町民の生活や学習意識の実態、潜在志向を捕らえたいという願いから社会教育調査を実施いたしました。これまでの教育委員会や公民館が行ってきた社会教育事業について、どのように考え、感じられておられるか、また、どのようにやってほしいかを聞き取りました。

かけさまで町民の生活と学習意識の傾向を探ることができました。調査結果は、これまでの社会教育活動、施設、人的体制の見直しとこれからの生涯教育推進基本構想や社会教育計画策定の基礎資料として活用させていただきます。町民の皆さんから寄せられたご要望、ご意見は、関係機関と連携を保ちながら、諸施策を講じ生涯教育の実践に反映していきたいと考えます。



1.自由時間とその過ごし方

休日は3時間以上。テレビがトップ



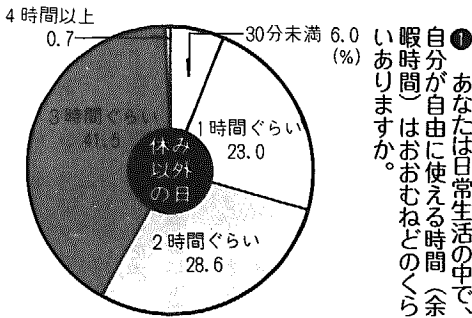
① 日常生活の中で自由に使える時間(余暇時間)は、大多数の人が休みの日でおおむね3時間以上、休み以外の日は2、3時間くらいある。特に最若年層と最老年層に比較的時間が多くなるとみられる。

② 自由時間の過ごし方は、休みの日、休み以外の日とも「テレビ・ラジオの視聴」が最も多い。休みの日では、男性が「その他の趣味・娯楽」、女性が「飲食・買物・行楽」が多く、新潟市を中心とした町外に出向く人もかなりいると考えられる。

平日では、「新聞・雑誌・読書」「家族のだんらん」「友人・近所のつきあい」「その他の趣味・娯楽」として「仕事に関する整理・準備」が最も多い。休みの日では、男性が「その他の趣味・娯楽」、女性が「飲食・買物・行楽」が多く、新潟市を中心とした町外に出向く人もかなりいると考えられる。



※1.()内の年代別は20歳、25歳、34歳、35歳、44歳、45歳、59歳、60歳、74歳の順。
※2.無回答は省略



① あなたは日常生活の中で、自分が自由に使える時間(余暇時間)はおおむねどのくらいありますか。

② その余暇時間を主にどのように過ごしていますか。

休みの日		休み以外の日	
テレビ・ラジオの視聴	39.8(38.1-41.1)	13.4(11.2-15.1)	14.4(12.7-15.6)
新聞・雑誌・読書	21.2(21.5-21.0)	15.0(17.9-12.7)	13.8(16.4-11.7)
飲食・買物・行楽	28.7(19.4-35.8)	15.6(15.8-15.4)	9.4(11.5-7.5)
家族のだんらん	19.5(12.1-25.2)	3.0(4.2-1.9)	6.0(10.8-2.2)
友人・近所とのつきあい	17.7(15.5-19.5)	2.5(2.3-2.7)	2.3(3.6-1.3)
学習・けいこ	1.9(0.8-2.8)	16.3(20.9-12.7)	21.5(34.1-11.7)
その他の趣味・娯楽			

2.社会教育 公民館事業への参加

参加者35%内容は大多数が満足

③ 社会教育活動は、全般に活発なようだが、とみている人が42・0%である。しかし、「わからない」が40・4%もあることは、まだ活発とは言いきれず、社会教育活動に関心の層の厚さを示すものと考えられる。これらの町民の学習意欲を掘り起こし、楽しんで参加する人が多くなるよう魅力のある学習内容を選定

④ 現在黒埼町の社会教育活動全般(公民館活動・社会教育など)について、どんな印象をおもちですか。

⑤ この2年間ぐらゐの間に、教育委員会や公民館が主催する、または、共催した行事(学級・講座・教室・スポーツ大会・その他の催し)に参加したことがありますか。

⑥ 「ある」と答えた人は、参加したことのある行事の満足度をお聞かせください。

⑦ 参加したことのない人におたずねします。その理由はどんなことが考えられますか、2つ以内で選んでください。

活発である	11.4(%)
やや活発である	30.6
やや低調である	11.3
低調である	5.9
わからない	40.4

ある	34.6(%)
ない	65.2

大いに満足した	16.4(%)
まあまあ満足であった	73.8
不満であった	9.0
大いに不満であった	0.8

忙しくて参加する時間のつごうがつかない	56.0(%)
どんな行事があるかわからない	30.9
行事に関心がない	26.0
気のあった友だちがいなかった	18.7
会場が遠すぎる	16.1
参加してみたい行事がなかった	14.7
行事内容が一般的で深みがない	4.9
家族の協力が得にくかった	4.6

⑧ この2年間ぐらゐの間に諸行事に参加した人は、およそ3分の1であるが男性より女性、20から24歳と45から59歳の参加が特に少なくなっている。対象事業が少なく、ことと町外志向、働きざかりで時間がとれないとも考えられる。地域別では都市化の波が大きい地域ほど参加が少ない。

⑨ 地域ほど参加が少ない。事については、参加者のほとんどが満足しているといつてよい。行事内容は、参加者から受け入れられているものと思われるので、参加しない残りの3分の2以上の人たちの参加意欲を高めるのが、今後の課題である。

池乗清市郎社教係長



水調査の概要
 (1) 調査期 昭和60年6月
 (2) 調査対象 20歳から74歳までの町民2000人
 (3) 調査方法 小・中学生がいる家庭には学校から、ほか自治会が配布し回収
 (4) 回答率 75.6%(1511人)
 *回答者の内訳
 (1) 男女別男43.6% 女56.4% 652人
 (2) 年代別人数と年齢別回答率
 ① 20歳 114人(64.4%)
 ② 25歳 343人(76.4%)
 ③ 35歳 444人(90.2%)
 ④ 45歳 558人(68.1%)
 ⑤ 60歳 74人 (75.6%)
 (3) 職業別 ① 農業182人(12.0%)
 ② 会社員606人(40.1%)
 ③ 公務員・団体職員140人(9.3%)
 ④ 自営業106人(7.0%)
 ⑤ 主婦259人(17.1%)
 ⑥ 無職122人(8.1%)
 ⑦ その他97人(6.4%)
 (4) 地区別 4地区に分けた
 *調査の経緯
 昭和59年11月に計画。13人の社会教育調査特設委員会を発足し、60年3月までに協議を重ね調査票を製作した。4月対象者名簿を作成し、5月30日調査票を送付。6月に回収。7月から11月まで集計、グラフ化。12月から2月まで特設委員会でき分析を重ね、3月に冊子にし全作業を終了した。
 *広報での取り扱い
 広報では主要な調査項目を掲載し、設問によって年齢別男女別を付けた。考察は特設委員会の委員が担当した。